

# 振り返り

会津保健福祉事務所 保健福祉課 障がい者支援チーム  
専門社会福祉主事 梶山 貴嗣

# 新型コロナウイルス（COVID-19） 感染症とは？

## ▶ ウイルスの特徴

- ▶ ・主に呼吸器感染を起こし、致死率は中国のデータをもとに2～3%
- ▶ ・新型コロナウイルスは、**飛沫及び接触**でヒトーヒト感染
- ▶ ・空気感染は否定的（エアロゾル感染≠空気感染）
- ▶ ・無症状の感染者であっても他者に感染させてしまう可能性がある
- ▶ ・感染力は1人の感染者から2～3人程度に感染させる

# 新型コロナウイルス（COVID-19） 感染症とは？

## ▶ 臨床的特徴（病態、症状）

- ▶ ・潜伏期は、約5日で最長14日程度
- ▶ ・感染可能期間（人に感染させてしまう期間）は、発症2日前から発症後7～14日間程度 症状が出る前に感染させてしまう可能性あり！
- ▶ ・症状は、発熱、せき、筋肉痛、倦怠感、呼吸困難が比較的多い（その他、味覚障害、嗅覚障害、頭痛、喀痰、血痰、下痢）
- ▶ ・38℃以上の高熱もあれば微熱程度の人も
- ▶ ・中国において、入院時に発熱を認めた症例は約44%

# 新型コロナウイルス（COVID-19） 感染症とは？

## ▶ 治療・予防（ワクチン）

- ▶ ・治療の基本は対症療法（特效薬はない）
- ▶ ・ワクチンに関しては、治験が開始されているが、実用化にはまだ時間を要する。

# 相談・受診の目安

- ▶ 少なくとも以下のいずれかに該当する場合
  - ▶ ・息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
  - ▶ ・重症化しやすい方で、発熱やせきなどの比較的軽いかぜの症状がある場合
  - ▶ ・上記以外で、発熱やせきなど比較的軽いかぜの症状が続く場合

## 重要！！

上記の目安は、みなさんが、相談・受診する目安  
これまでどおり、検査については医師が個別に判断する。

# 濃厚接触とは？

- ▶ 新型コロナウイルス感染症が疑われる者と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- ▶ 適切な感染防護なしに、新柄新型コロナウイルス感染症が疑われる患者を診察、看護、もしくは介護（支援）していた者
- ▶ 新型コロナウイルス感染症が疑われる者の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接接触した可能性が高い者
- ▶ 手で触れることのできる距離（目安として1 m）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者（周辺環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）

# 感染経路

## ▶ 飛沫感染

- ▶ ・感染者のせきやくしゃみ、会話等でウイルスの含まれた体液の飛沫を浴びる
- ▶ ・侵入門戸は、口・鼻・目の粘膜

## ▶ 接触感染

- ▶ ・汚染されたモノやヒトに触れた手で、自身の鼻や目を触る

# 飛沫感染予防策

- ▶ サージカルマスクを着用
- ▶ 個室
- ▶ 集団隔離（コホーティング）も可能
- ▶ 個室および集団隔離が難しい場合、ベッド間距離を1 m以上に保つ  
（さらに、カーテンなどによる障壁を設ける）



# 接触予防策

- ▶ 濃厚接触者や周辺環境に触れる時には、手袋を着用
- ▶ 個人防護具は、退室前に外し、手指衛生
- ▶ 医療機材（血圧計、聴診器、体温計など）は専用  
また、複数の対象に使用する場合は、他者に使用する前に必ず消毒

# リネンやユニフォームの処理

- ▶ 適切な个人防护具を使用していれば、中に着ている被服に特別な処理は不要
- ▶ 明らかな接触等、汚染した可能性がある場合は、80℃以上のお湯に10分以上浸すか、0.05%次亜塩素酸ナトリウム液に1時間浸す
- ▶ 以上の消毒後は、感染性がないものとして判断してよい

# ゾーニング

- ▶ 施設内に感染者が発生した場合は、施設内をゾーニングして、介護や支援を行うことになる。

ただし、現在は、感染者は入院となる。

## ▶ 標準例

- ▶ クリーンゾーン、セミクリーンゾーン、レッドゾーンの3種
  - ①クリーンゾーン…対策本部の設置等
  - ②セミクリーンゾーン…防護服の着脱等
  - ③レッドゾーン…利用者の生活区域

# 私たちが注意すること

- ▶ 3密（密集・密着・密閉）を回避しながら、通常の予防策（施設内の感染マニュアルに沿った対応や手洗いの励行、体調管理等）を行い、疑い患者発生時は飛沫・接触予防を追加

※ 飛沫・接触予防策を常に行うことは困難かつ非効率

- ▶ 1つの感染対策を実施したとしてもほころびが生じる。あらゆる感染対策を組み合わせて、感染リスクを低下させる。
- ▶ 感染者とすれ違っただけ、触れただけでは感染しない

# スタッフの確保

- ▶ 職員からの感染者発生などに備え、あらかじめ、スタッフの確保について検討が必要。
- ▶ 濃厚接触者の処遇をどうするか（感染者は入院するが濃厚接触者は施設に残る）を想定した場合も、スタッフをどう配置するか、確保するかの検討が必要となる。

# お知らせ

本日の資料及びミーティング映像を、  
後日、会津保健福祉事務所のホームページ  
に掲載予定ですので、ご活用ください。  
なお、掲載後、文書にてお知らせします。

以上で研修会は終了です。

お疲れ様でした。